

地域外来・検査センターにおける看護師の活動

新潟県看護協会 専務理事 太田昭子



《県担当医師と従事されている3名の看護師》

新潟県の「地域外来・検査センター」（いわゆるPCR検査センター）の1つである「新潟市医師会新型コロナ相談外来」に、ナースセンターからの紹介により現在3名の看護師が勤務しています。

今年6月1日の開所当初から勤務している看護師の活動について紹介します。

市内医療機関の敷地内にプレハブ型のテントを設置し運営しています。テントは5張あり、それぞれのテントやテントの前で受付、検査、診療、防護服着脱等を行います。

勤務は午前中で20人程度の検査を実施していますが、最近の感染者の増加により検査件数は増加しています。業務内容は医師によるオンライン診察の後、ドライブスルー方式による検体採取です。

看護職による検体採取という業務であったため応募当初は少し不安でしたが、事前に講義やデモンストレーション（検体採取方法、疾患の理解、消毒・防護服着脱等の感染防止策）や、ビデオ学習など十分な学習があったこと、また、疑問、不安点に対しては現地医療機関の医師や市医師会、県担当者（医師）による丁寧なバックアップ体制があり、現在は、あまり不安を感じず従事することができています。

3名ともナースセンターを通じて勤務につながっています。その中のお一人は、以前の職場を退職時に登録しており、この度ナースセンターから求人の連絡があった際には、検体採取という業務ではありましたが、当県は医療職（特に医師）が不足していることを認識していたことや、何かお手伝いしたいとの思いがあり、翌日には申し込みをさせていただきました。

業務で大変なことは「暑さ！」です。今年の長雨では、防護服、雨具による大量の汗、N95マスクによる暑さ、手袋は外すと中に溜まった汗が滝のように飛び散るといった状況です。対策として、検体採取時間を集中させ、防護服着用時間を短縮するなど工夫しながら対応しています。

同センターには順次開設予定の県内検査センターの方が見学に訪れています。

県担当医師は、「同センターは新潟市、市医師会や現地医療機関などと共に築き上げた県内の検査センターのパイオニア的存在である。看護師を中心とした従事者と一緒になり手探りで検査手順等を考えた、ここまでしっかりしたものができるとは思っていなかった、看護職が確保できなければセンター立ち上げは不可能であり、ナースセンターを通じて確保できたことに感謝している。」と話されていました。